NEWS RELEASE

国土交通省 神戸運輸監理部

令和8年11月16日資料配布
14：00発表

未来の船乗りが誕生？ 親子54名が海の仕事に触れた1日

～ジャンボフェリー「あおい」で親子交流海洋教室を開催しました～

神戸運輸監理部は、令和8年11月3日（火・祝）に、神戸市及び公益社団法人神戸海事広報協会との共催で親子交流海洋教室を開催しました。

兵庫県内在住の小・中学生とその保護者27組54名が、フェリー「あおい」での航海中に、操舵室の見学や手旗信号・ロープワークの体験を通じて、海や船、船員の仕事に触れました。

本教室は、子供たちに港や船の役割、船員の仕事への理解を深めてもらうことを目的として毎年開催しており、今回も募集定員を上回る58組の応募がありました。

今年も、ジャンボフェリー株式会社、神戸地区内航船員確保対策協議会、日本内航海運組合総連合会、神戸海洋少年団など、多くの関係団体の協力を得て開催しました。

1. 開催概要

日　時：令和8年11月3日（火・祝）7時15分～18時00分
行　程：神戸港から高松東港まで、フェリー「あおい」で航海　（帰路はバス）
参加者：兵庫県内在住の小学3年生から中学3年生とその保護者　27組54名
＜主なプログラム＞

- 神戸港の見学・講話
- 明石海峡大橋の見学
- フェリー「あおい」の魅力紹介・クイズ大会
- バックヤードツアー（操舵室・船員用食堂の見学）
- 講話「港や船の仕事について」
- 手旗信号教室・ロープワーク教室



神戸港出港（甲板上で記念撮影）

2. 当日の様子

当日は晴天に恵まれ、参加者は神戸港から高松東港まで約5時間の航海中に多彩なプログラムを体験しました。

（神戸港・明石海峡大橋の見学）

出港後、甲板上で神戸港を見学しながら、神戸市港湾局の職員が神戸港の役割や歴史を説明しました。明石海峡大橋を通過する際には、神戸海事広報協会の職員が橋の概要や、明石海峡の航路での運航方法を解説しました。橋の真下にさしかかると、参加者はその大きさに見入り、写真を撮る姿も多く見られました。


明石海峡大橋を真下から見学

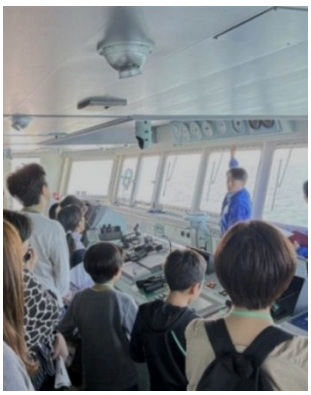
（船内プログラム）

船内では、ジャンボフェリー株式会社のスタッフが、フェリー「あおい」の魅力紹介と船に関するクイズ大会を行いました。「ジャンボフェリーが運んだことがあるものは？」という問題では、飛行機・電車・ヘリコプターの三択から親子で相談しながら回答し、正解の「電車」が発表されると驚きの声が上がりました。

続くバックヤードツアーでは、通常立ち入ることのできない操舵室や船員用食堂を見学しました。参加者は、船員から操舵室の設備や操船方法、船内での仕事や生活について説明を受け、熱心に質問していました。

その後、神戸運輸監理部海事振興部長が、船や港が暮らしを支えているという役割や、船員の仕事について講話を行いました。

このほか、神戸海洋少年団の指導の下、甲板上で手旗信号を、船内でロープワークを体験しました。子供たちは保護者と一緒に取り組んでいました。



操舵室見学



手旗信号体験



ロープワークに挑戦

（帰路）

神戸への帰路のバス内では、船員の魅力を紹介するアニメを上映し、1 日の締めくくりとしました。

3. 参加者の声

アンケートでは子供たち全員が海・船・港への興味・関心が深まったと回答し、感想等も寄せられました。

・「操舵室等普通は入れない所に入れて楽しかった」
・「ロープワーク、手旗信号教室が楽しかった」
・「普段はできない貴重な体験ができた」
・「海や船のことを知る良いきっかけになった」
・「海の仕事は大変だけど、楽しそうと思った」
・「いろいろな船にも乗ってみたい」

4. 成果と今後の取組

参加者からは体験に満足する声に加え、海や船に関心を示す声が寄せられました。実際の船上で船員の仕事などに触れたことが海や船を身近に感じるきっかけになったものと考えています。

神戸運輸監理部は、今後も関係団体等と連携しながら、子供たちが海や船、船員の仕事に興味を持つきっかけとなる取組を進めてまいります。

配布先	問い合わせ先
神戸海運記者クラブ	神戸運輸監理部　海事振興部　船員労政課 担当：武津、鈴木 電話：078－321－3149（直通） 神戸運輸監理部公式X